Powered by Tenboshi Co., Ltd.

浜北区新原よりお届けする、地元の“イイネ！”通信。

天星 Magazine

［テンボシ マガジン］

vol.6

March 2022

リニューアルのご挨拶

天星製油株式会社
代表取締役 鈴木 宏政

新原下善自治会の皆様には、平素より弊社業務にご理解をいただき、改めて感謝申し上げます。おかげさまで、オイルリサイクルを本業とする弊社が当地で操業を開始して12年が過ぎました。そして、自治会のご厚意で始まった広報誌は、第6号を迎える今回より「天星Magazine」として大幅に紙面を刷新いたします。弊社近況に加え、ご近所紹介、身近な有名人、歴史小ネタ、エコ知識等々を興味の赴くままに盛り込んで、地域のコミュニケーションをお手伝いしたいと考えております。なお本誌は、全戸配布するとともに、弊社お取引先にも配布して、地域をPRさせていただきます。ご支援・ご愛読のほど、よろしくお願いいたします。

No. 01 編集長キネのご近所探訪記

自治会と天星製油にとって より関係を深める１年に

★ 2022年度 新原下善自治会長
市川 修二さん

1955年（昭和30年）生まれ。浜北区新原出身。検察庁で事務関係の業務に従事されていました。

木根：2022年度の新原下善自治会長に就任される市川さんに、弊社オフィスにお越しいただきました。自治会長のお仕事は、どのようなものでしょうか？

市川：班長会を開いて各地区に連絡するほか、12月の地域防災訓練の段取りといった、**各種のはたらきかけ、取りまとめ**が中心です。七五三から敬老会まで、関わる行事の幅も広いです。また、**地元の改善要望の吸い上げ**も大事な役目ですね。

木根：長く検察の事務関係に携わっていられたとのことで、緻密な仕事はお手のものですね。

市川：そう上手くいきますかどうか（笑）。頑張ります。

木根：オフのご趣味は？

市川：家庭菜園です。自宅近くの畑で、白菜・大根・玉ねぎ・スナップえんどう・ジャガイモ・ナス・トマト・きゅうりなど、いろいろ作っています。

木根：市川家の食卓には、常に季節の野菜が並ぶわけですね。ご自身もお料理を？

市川：そこは妻に一任しております(笑)。

木根：市川さんは、これまで天星製油と何か関わりを持たれたことはあるでしょうか？

市川：数年前に班長会で、水質の測定項目に関するお話を聞いたことがありますね。

木根：今年も工場の施設計画などで、いろいろとご相談させていただくと思いますが、是非よろしくお願いします！

市川：こちらこそ、よろしくお願いいたします。

本記事は撮影時のみマスクを外しています。ご了承ください。

No.
02 天星 News Topics

天星製油の最新のニュースをお届けします！

浜北西高等学校での職業講話に参加しました。

2月7日（月）、**静岡県立浜北西高等学校1年生を対象とする職業講話**に、弊社の営業2課・松井が講師として参加しました。イソップ寓話「3人のレンガ職人」を引用して**「働くことの意味」**について考えてもらったり、自身の担当業務のやりがいなどを伝えたりしたうえで、「勉強や遊びのさまざまな経験を通して、物事を多角的に見ることを学べます。いろいろなものに興味を持ってチャレンジし、自分がやりたいことを見つけてください」という話をさせていただきました。質疑応答では、生徒の皆さんから、仕事の魅力や苦労、天星製油 HP の掲載内容などについて熱心な質問が相次ぎ、私たちにとっても大変有意義な機会となりました。

天星製油のコロナ対策をご紹介いたします。

CO_2濃度測定機：500ppm以下が適切な換気状態となります。

新型コロナウイルス感染症のオミクロン株による感染拡大がまだ落ち着かない日々が続いています。弊社では、CO_2濃度測定器を事務所棟内の各所に導入しています。CO_2濃度をチェックすることで室内の換気状況が一目で把握できるため、定期的な換気と併せて活用し、**事務所内を常にクリーンな状態**に保っています。また全社員を対象とした抗原検査キットによる検査を毎週行っており、陽性者の早期発見態勢を整えて社内での**クラスター発生防止**に努めています。その他にも、弊社ではさまざまな感染症対策を施しており、これからも皆様にご安心と安定したサービスをお届けできるよう、万全を期してまいります。

No.
03 「旬」な天星スタッフご紹介！

事務課 総務グループ 係長
木根 慎也

Q お仕事内容は？

新卒で入社し、今年の4月で7年目となります。現在は採用活動や広報活動を中心にさまざまな業務に携わっており、『天星 Magazine』の企画・編集も担当しています（記事を埋めるため、今号も誌面のあちこちに顔を出しています…）。

Q 最近ハマっていることは何ですか？

料理に凝っています。先日も**「エアフライヤー」**という、油を使わなくても揚げ物を作ることができるヘルシーな調理家電を購入しました。これを活用して、より美味しいヘルシーから揚げを作るために研究にいそしむ！ そんな毎日です。

Q これからの抱負をお願いします！

まずは、リニューアルした『天星 Magazine』編集長として、**新原下善地区の良さを伝え、天星製油という会社に興味を持っていただける誌面作り**に邁進します！インタビュー記事など新しい企画も多いので、手探りの面もありますが、早く軌道に乗せていきたいと考えています。

精製課
川合 菜々美

Q お仕事内容は？

今年の4月で3年目です。分析や実験を行う際に使用する**試薬と分析装置の管理、油の分析などを担当**しています。昨年、前任の方から業務を引き継いだ際は覚えることが多く大変でしたが、今はいろいろと新しいことに取り組めて面白いなと感じています。

Q 最近ハマっていることは何ですか？

某人気ゲームにハマっています。これまでのシリーズから大きな仕様変更をしたので、既視感が少なく、新鮮な気持ちで遊ぶことができるのが魅力です！ ここ最近は帰宅してから毎日プレイしています！

Q これからの抱負をお願いします！

明確な抱負や目標ということではないのですが、仕事をしていると、まだまだ自分の知識や経験が足りていないと痛感させられる場面が多いです。ですから、**「日々、勉強」**という心がけを持ち続けて、これからも頑張っていきたいです！

No.
04 天星の「スゴ技」 【天星のオイルリサイクル・Part 1】

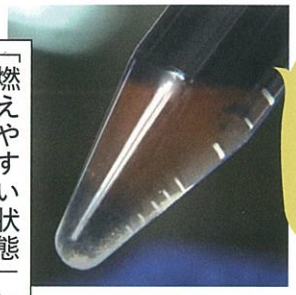
天星製油では、**「廃油」**と呼ばれる使用済みの油を、**「再生重油」**という燃料へとリサイクルし、販売しています。再生重油は、石油から精製される燃料である「重油」の代替燃料として使用されています。

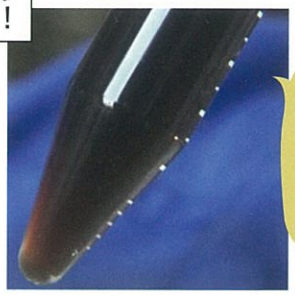
燃料には固体や液体、気体までさまざまな種類が存在していますが、共通して求められる要素が一つあります。当たり前のことのようですが、それは**「燃える」という能力**です。原子力を除いて、燃料は燃やすことでエネルギーを得ているため、燃えなければそもそも燃料として活用することができません。

ガソリンや灯油、重油など石油から精製された純粋な油は、燃えやすい状態となっています。しかし、使用済みとなった油からリサイクルされた再生重油は、必ずしもそうとは限らないのです。なぜかといいますと、回収されて集まった**廃油の中には、水や金属といった燃えない物質が多く含まれている**からです。これらの不純物が含まれている状態では燃料として必要な能力を満たせず、「火が付かない」「途中で燃焼が止まってしまう」などということになってしまいます。

そのため、廃油を燃料として活用するには、**油の中に含まれている不純物を取り除く**ことが欠かせません。油中から不純物を除去することで油を燃えやすい状態へ戻す、これが天星製油の行っている**「オイルリサイクル」**というわけです。

油の不純物を除去して「燃えやすい状態」に戻す！





No.
05 環境保全 Report 【企業連絡会・実施のご報告】

2月18日（金）、**新原下善自治会の方々と、環境保全協定に基づく企業連絡会を開催**いたしました。2020年度の三役ならびに2021年度の三役の皆様にご参加いただき、前年度の運営状況と**環境測定**の結果が問題ないことをご確認いただきました。

また、昨年10月に実施しました近隣への環境アンケートの結果をお伝えするとともに、いただいたご意見・ご要望に対する弊社の取り組みを報告し、ご理解をいただきました。

最後に、今後の運営予定及び自治会との連携予定についてもお伝えさせていただきました。こちらについては、今後、**自治会と弊社で協力しながら進めてまいります。**

Key Word

☑ **環境保全協定**
新原下善自治会と天星製油とで交わされている協定です。

☑ **企業連絡会**
新原下善自治会と天星製油とで毎年実施されている報告・連絡会です。内容は前年の運営状況や協定で定められた環境測定の結果報告、連絡事項やご相談などとなります。

☑ **環境測定**
環境保全協定で定められている測定で、以下の項目があります。
排ガス／騒音／振動／悪臭／水質（工場放流水・地下水・近隣4軒の井戸水）
※近隣4軒の井戸水の測定は、自治会からの依頼があった際に実施いたします。

項目	排ガス	放流水	観測孔（水質）
実施日	(2021.12)	(2021.12～2022.1)	(2021.12)
測定結果	○	○	○

No.
06 四季のおたより

【厳冬だから、春の兆しの嬉しさもひとしお】

お日様の光が心地よく感じられ、のんびりと散歩を楽しめる春の季節がやってまいりました。うららかな陽気に包まれるとつい忘れてしまいそうになりますが、今年の冬は積雪が多く、例年とは様子の異なる気候でしたね。それでも、厳しい寒さの中に凛とした花をつける**梅や椿**、春の確かな訪れを感じさせる**菜の花**などは、自然のリズム通りに咲き誇っていました。その姿を見て、**自分も頑張らなくては、と元気づけられた**ことを思い出すこの頃です。

万葉の森公園で見かけた花たちの姿です。

No.
07 新原今昔さんぽ

Episode. 1

【彦助堤の物語が伝える「あばれ天竜」の記憶】

天竜川に関する最古の記録は奈良時代のもので、当時は麁玉（あらたま）川という名でした。平安時代に入り、広瀬川、やがて天竜川と呼ばれるようになります。時代につれて流路を変えつつ、しばしば洪水を起こす激しい川の勢いは**「あばれ天竜」**と恐れられました。そして数多く行われた天竜川の治水工事の中でも名高いのが、**江戸時代の初期、延宝 3 年（1675 年）に作られた「彦助堤」**です。

当時、二つに分岐する天竜川の**東の分流は大天竜、西の分流は小天竜**と呼ばれていました。小天竜は大雨のたびに氾濫を繰り返して流域の田畑を崩し、村々を苦しめました。これを防ぐため、小天竜の完全な締切りを目指した「彦助堤」は、約 1 ヵ月で延べ 10,400 人の人夫が動員された大工事でした。堤防の起点が**新原村の名主・松野彦助**の土地だったことがその名の由来とされていますが、もうひとつよく知られた伝承があり、大正 10 年に発行された『静岡史蹟名勝誌』では、こんなエピソードが紹介されています。

「……彦助は築堤の指揮に尽力したが、作業は難航をきわめた。**ついに彦助は『私が人柱となろう』と叫んで、自ら水中に身を投じた。**人々はこれに奮起し、苦労のすえ工事を完成させた。堤防は、彼を記念して『彦助堤』と呼ばれるようになった」

これが史実なのか、正式な記録は残っていません。あるいは伝説に属するものかもしれません。しかし、何か人のこころに強く訴えかけるものがあるからこそ、この話が後世に語り継がれたのでしょう。自然の力を象徴する天竜川の猛威、それに命を賭けて対峙する人間たちの姿――。

彦助堤によって馬込川は天竜川から独立し、ほぼ現在と同じ河道になりました。**その後も堤防は、150 年以上にわたって補修や復旧が繰り返され、人々の暮らしを支えました。**いまも新原には彦助堤の一部が残り、遠い昔の記憶を静かにたたえています。

新原津嶋神社北交差点の付近にある彦助堤の石碑

参考文献：『天竜川と東海道』浜松市立天竜公民館編、『浜北市史 通史 上巻』、『静岡史蹟名勝誌』

＜発行＞
天星製油株式会社 検索
天星Magazine vol.6　2022年3月号

＜HP＞
〒434-0003
静岡県浜松市浜北区新原 3833-1
TEL：053-586-9911
http://www.tenboshi.com/